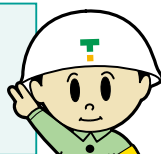


検査員の現場報告1



こんな場所で漏電しているなんて！

仙台東事業所 長沼 文浩

普段目に見えない箇所が原因で発生した事故事例をご紹介します。

【状況】

4月初めの就業終了間際の時間帯に、お客さまに設置している絶縁監視装置から電気事故受付センターに漏電警報発生のお知らせがあり、事業所に連絡が入りました。しかし、センターから連絡を受けたときには既に漏電回復のお知らせが届いていました。お客さまに連絡したところ、「業務終了時間のため全ての機械を停止したので、明日異常が発生したら対応して欲しい」との申し出がありました。

翌日の朝9時過ぎ、再度漏電警報が発生したことから直ちに現地に向かい出発しました。その途中、お客さまより「機械を稼働させたところ、キュービクルよりブザーが鳴動した」との連絡がありました。

【調査】

約25分後に到着しお客さまから状況をお聞きしたところ「細断選別機を稼働させたところキュービクルよりブザーが鳴動した」とのお話があり、機械のある場所に案内していただきました。まず接続されているブレーカー主幹を開放し、絶縁抵抗測定を実施したところ0メガオームと絶縁不良だったことから、お客さまに間違いなくこの機械が原因であることを伝えました。外観を調査しましたが異常は認められません。お客さまからは「この機械は先月掃除したばかりなんだよなあ」とのお話があったことから、もしや金属屑が入り込んだのでは？と考えモーターの接続箇所の蓋を開けてみましたが、漏電が発生するほどの金属屑はありませんでした。予想が外れ意気消沈しながら蓋を戻そうとしたとき、何と！蓋の内側にキラリと黒光りするアーク痕を発見しました。

【原因】

機械を使用しているときの振動により、蓋（躯体）に接触していたケーブル絶縁部が剥離し充電部が露出したことが原因でした。

【復旧】

露出した充電部及び劣化している箇所の絶縁処理を施し、約30分後に復旧しました。



【お客さまの声】

「定期的にエアで清掃を行っているが、今後は機械を使用中に感電するのは怖いから、清掃しながら絶縁部の剥離がないか注視します」とのお話がありました。

【まとめ】

今回の事例は、普段点検のできない目に見えない箇所が発生した漏電事故です。お客さまで機械のメンテナンスや配置変更を行ったり、振動が大きい機械を使用している場合は、機械に入る配線角度や接続箇所を確認していきたいと思います。

